



一般社団法人 日本コンクリート診断士会設立

峰 松 敏 和*

1. はじめに

平成 22 年 7 月 23 日、日本コンクリート工学協会会議室において一般社団法人日本コンクリート診断士会の設立総会が開催され、同会が発足する運びとなりました。

平成 13 年社団法人日本コンクリート工学協会は、社会ストックであるコンクリート構造物の維持管理に対応すべくコンクリート診断士の資格制度を設立し、平成 22 年には 7460 名のコンクリート構造物の調査・診断、評価・判定、補修・補強等、コンクリート構造物の維持管理に関するスペシャリストが登録しています。

この間に、各地区に診断士会が設立されましたが、全国組織での診断士会は設立されておらず、既存の地区診断士会を取りまとめる全国組織の設立が望まれていました。また、新たな地区診断士会の設立や地区診断士会のない地区の診断士活動を支援する組織の設立の要望が多方面からあり、今回の設立に至りました。

2. 一般社団法人日本コンクリート診断士会の概要

日本コンクリート診断士会は、日本コンクリート工学協会の認定するコンクリート診断士制度を支援することにより、コンクリート構造物の維持管理に貢献することを目的とし、具体的には、①各地区に設立されている、コンクリート診断士会の活動を強力に支援しつつ、効率的な連携によるコンクリート診断士の資質向上。②構造物管理者への技術対応により社会へ貢献。③診断士の社会的信用・地位の向上。加えて、④個人、法人会員を増強し、空白地域の診断士会設立を支援しつつ、一層の連携強化を図り、コンクリート構造物の維持管理を通して、社会へ貢献する活動。を実施していきます。

上記の目的を達成するための事業内容として、下記の項目を定款に定めています。

- ①コンクリート診断士の技術力向上・資質向上のための活動
- ②コンクリート診断士の社会的地位の向上・および処遇改善に関する広報活動
- ③コンクリート構造物に関する新技術・新材料の整

* みねまつ・としかず／一般社団法人日本コンクリート診断士会 幹事会委員（正会員）

表-1 日本コンクリート診断士会会員

所 属	会員数
北海道コンクリート診断士会	77
青森県コンクリート診断士会	24
新潟県コンクリート診断士会	81
ながのコンクリート診断士会	47
東京コンクリート診断士会	143
石川県コンクリート診断士会	62
福井県コンクリート診断士会	66
静岡県コンクリート診断士会	34
東海コンクリート診断士会	13
京滋コンクリート診断士会	14
鳥取県コンクリート診断士会	23
島根県コンクリート診断士会	42
高知県コンクリート診断士会	21
NPO 法人大分県コンクリート診断士会	51
日本コンクリート診断士会	704*1

*1 日本コンクリート診断士会会員 6 名を含む

理・評価等、コンクリート診断に関する社会的問題への対応

- ④コンクリート構造物の点検・診断、補修・補強、維持管理に関する事業
- ⑤前各号に附帯関連する一切の事業

日本コンクリート診断士会には、表-1 に示す 14 地区の診断士会が参画しており、診断士資格保有者の 1 割弱が日本コンクリート診断士会の正会員となっています。加えて、診断士合格を目指す賛助会員や学識経験者である学会会員の個人会員と法人会員とで組織される診断士会であり、法人会員には、各地区所属の会員に加え、新たに設立した日本コンクリート診断士会へ 52 社の参画がありました。

3. 一般社団法人日本コンクリート診断士会設立総会

設立総会は、正会員、賛助会員、学会会員、計 66 名と報道関係 4 名が参加し、7 月 23 日に開催されました。

総会に先立ち総会議長に設立準備事務局から推薦があった東京工業大学、林静雄教授が選出されました。

林議長の進行のもと、審議が開始され、最初に設立準備事務局の小野主査からの設立趣意書の説明が行われ、

以下の各議案と事務局からの報告に対して、活発な討議が行われました（写真-1）。

第1号議案：一般社団法人日本コンクリート診断士会
定款（案）

第2号議案：一般社団法人日本コンクリート診断士会
細則（案）

第3号議案：理事，監事，学会会員候補

第4号議案：平成22年度事業計画

第5号議案：平成22年度収支計画

第6号議案：平成22年度設置部会と事務局所在

その結果、定款および細則の軽微な変更を行うことや理事・監事に各地区診断士会の会長等が選任され、理事・監事の承認のもと、日本コンクリート診断士会の初代会長には東京工業大学、林静雄教授に決定しました。

この結果を踏まえ、定款の修正等を行い、登記し、9月4日に正式に「一般社団法人 日本コンクリート診断士会」が正式に発足いたしました。

設立総会の終了後、(社)土木学会会長の阪田憲次岡山大学名誉教授の「社会基盤整備について」の特別講演（写真-2）を聴講、その後、設立総会出席者、特別講演の阪田土木学会会長や日本コンクリート工学協会の榎田会長（写真-3）や五十嵐専務理事を交えた懇親会を開催し、両会長からの祝辞も頂き、無事、日本コンクリート診断士会の発足を迎えることができました。なお、日本コンクリート診断士会への入会等につきましては、ホームページ（www.jcd-net.or.jp）を参照願います。

ここに、診断士会の林会長の所信ならびに阪田土木学会会長から期待の言葉をいただきましたので、紹介します。

日本コンクリート診断士会

初代会長 林 静 雄

公共事業を取り巻く環境が、新規投資から維持管理に重点投資する方向に大きく変わりつつあるので、コンクリート診断士が担わなければならない役割も重要性が増していくと思う。

維持管理の技術は、力学的な側面だけではなく、化学的な知識なども含めた総合技術であり、新規の構造物を

製造するよりもはるかに難しい技術であるにもかかわらず、社会的に認知されているとは思われない。日本は、南北に長く気候の変化に富んでいるので、コンクリート劣化の問題も地域ごとに異なる。診断士同士が技術交流を行い、互いの技術を学びあっていくことが、診断技術を高めていくうえで重要であり、日本コンクリート診断士会の役割が重要と考える。

今後、コンクリート構造物に診断業務が増えていくと思われるが、コンクリート構造物の診断結果の信頼性を高めるためには、コンクリート診断士の資格を診断業務の受託条件とすることが重要だと考える。診断士がいない都道府県はなくなったが、診断士の技術と地位の向上のための技術交流や勉強会に対する取組みは地域ごとの温度差が大きい。むしろ積極的に取り組んでいる地域のほうが少ないように思う。

品質の高いコンクリート構造物に対する診断を行うためには、コンクリート診断士の意識の向上と、連携が必要であるので、日本コンクリート診断士会はその中心として、責任は重大である。

多くの診断士に参加してもらえるように、組織の強化に努めたい。

一般社団法人日本コンクリート診断士会への期待

土木学会会長 阪 田 憲 次

我が国の社会基盤を取り巻く環境は厳しく、なかでも、少子高齢化による生産労働人口の減少は、税収減および福祉予算の増大をもたらし、公共事業費の削減を余儀なくさせている。また、経済成長期に整備された社会基盤の多くが老朽化し、それに対する効果的な維持管理と長期効用が求められている。社会基盤、とくにコンクリート構造物の劣化に対する適切な診断・評価、補修・補強に関する判定および対策が急務である。限られた予算の中で、コンクリート構造物の適切な維持管理を担うコンクリート診断士への期待は大きい。診断士会設立を機に、会員各位がさらなる研鑽を積まれ、我が国の新たな成長の基盤となるコンクリート構造物の維持・管理に努められるようお願いしたい。



写真-1 設立総会での質疑・応答状況



写真-2 阪田土木学会会長の特別講演風景



写真-3 懇親会での榎田 JCI 会長からの祝辞